

# 令和7年度 県立水戸桜ノ牧高等学校常北校自己評価表

目指す学校像	校訓「至誠、勤勉、協和」の精神を徹底させ、心身共に調和のとれた人間形成を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを目指す。		
	三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①至誠を貫き、勤勉かつ規範意識が高く、社会変化に柔軟に対応でき、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、社会的自立ができる人財 ②生活を通してよりよい人間関係を形成し、課題解決に向け主体的にチャレンジできる人財 ③地域社会や産業界等と協力し合い、生涯にわたって郷土を愛し、自ら学び続けることのできる人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①時代や地域の求める人財育成のため、個別最適な進路選択と学力向上の推進 ②授業や学校行事をとおした心の教育を推進し、モラル・マナーを身に付け、道徳心を確立 ③生徒一人一人の確実な進路実現を目指し、キャリア教育と進路指導を充実	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①心身共に調和のとれた成長と文武両道を目指し、仲間を大切に思いやることのできる生徒 ②自分の可能性と進路実現を広く追究して、進路実現に向け努力のできる生徒 ③地域社会や学校の規範を守って生活することができ、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動など積極的に取組意欲の高い生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 ○ 学習指導の面では、習熟度別少人数授業やチームティーチング等でのきめ細かい指導を通して、学習意欲及び理解度の向上が図れた。 ○ 生徒指導の面では、登下校時や昼休み等の校内外の巡視やSCとの連携を通して、生徒指導上の問題を未然に防止し、生徒理解にも繋がった。全体として授業態度の改善が図られている。 ○ 進路指導の面では、希望進路決定率100%を達成した。 【課題】 ○ 授業でのタブレットの利用を喚起しているものの、生徒が忘れてしまい、ICTを実践する機会を逸したことが多々見られたことが課題である。	○確かな学力の定着と学習意欲の向上（授業改善）	① 創意工夫を凝らした教材研究や相互授業参観等を通じ質の高い授業の実践 ② ICTの積極的活用により学習意欲の喚起を図り、計画的・継続的な学習の実践 ③ 少人数・習熟度別授業の有効活用により基礎学力の定着及び学習意欲の向上 ④ 外部講師や英検等を活用し国際理解教育とコミュニケーション能力の向上 ⑤ 「生徒による授業評価」における「授業満足度」の平均3.2以上	A
	○基本的な生活習慣の確立	⑥ 規則を理解することや遅刻防止指導を徹底した基本的生活習慣の確立 ⑦ 登下校時や授業の開始・終了時、校内外での挨拶の徹底 ⑧ 計画的な年3回の面談や家庭訪問、SCとの連携等を通じた生徒理解の促進	B
	○個に応じた進路実現	⑨ 3年間を見通した計画的なキャリア教育の実践 ⑩ キャンパス・職場見学、インターンシップ、各種講演会、キャリア・パスポート等による進路意識の高揚 ⑪ 基礎学力定着に向けた取組や各種資格取得の奨励を通じた個別最適な進路実現	A

別紙様式2（高）

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外部講師や機関との交流機会は増えてきているが、本校生徒自らが外に足を運ぶケースはあまり見られないことが課題である。</li> <li>○ 全教職員が共通理解、共通行動を基本として日々の生徒指導を実践していく体制の徹底を図る。生徒支援部を中心に、学校全体の指導体制・方針を構築する。</li> <li>○ 自転車・バイクの乗り方や公共交通乗車マナーを指導する。</li> <li>○ 3年間を見通したキャリア教育を充実させ、早期から進路意識を涵養する。</li> <li>○ 教員の担う業務の明確化を図るとともに平準化を進め、勤務時間外の業務縮小・削減及び教員の意識改革を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別活動及び部活動の活性化と豊かな人間性の涵養</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑫ 学校行事や生徒会活動、HR活動を通じた積極性の伸張及びキャリア・パスポートを活用した自己変容や成長への気付きの促進</li> <li>⑬ 部活動への積極的な参加を促し、望ましい人間関係の構築と学校生活の充実</li> <li>⑭ 自他の命を尊重し、多様性を受容できる心の育成と豊かな人間性の涵養</li> </ul>	A		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域から信頼される学校づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑮ ホームページや地域広報誌、学校新聞等のPR手段を活用し、保護者・地域への積極的な情報提供の推進</li> <li>⑯ 学校評議員や近隣中学校等の意見を取り入れ、地域と連携した教育活動の展開</li> <li>⑰ 学校公開の計画的な実施による地域からの理解促進</li> <li>⑱ 分校の特長を活かし、シティイズンシップ教育の推進と地域連携の促進</li> </ul>	A		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DXハイスクール事業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑲ 本年度から本格実施となる「小規模校支援型遠隔授業」の円滑な運用</li> <li>⑳ 高校教育課、受信校（磯原郷英高、茨城東高）との連携</li> </ul>	A		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の業務見直し及び意識改革の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ 教職員が担う業務の明確化・効率化を目指すとともに、校務分掌の在り方や行事の精選・内容の見直しを図り、業務の平準化と長時間勤務の改善</li> <li>㉒ 従前からの業務の見直しと精選による事務作業等の負担軽減や、勤務時間を意識した業務の遂行など、教員としての新たな働き方改革の実践</li> </ul>	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	確かな学力の向上と学習意欲の向上（授業改善）	創意工夫を凝らした教材研究や少人数編成授業、それぞれの良さを引き出す適切な学習評価、わかりやすい授業の研究、ICT機器を活用した授業等によって、学力を高めるとともに学習意欲を向上させる。 ①②③④⑤⑥	a A	今後も積極的にICTを活用した授業を行っていく。	
教科	国語	基礎的な国語力の習得	基礎的な漢字・語彙等の反復練習により基礎学力を身に付け、自分のものとして応用できる国語力を育成する。 ①②③⑥	a	朝の読書を日常の読書につなげるために、授業の中で読書する態度を育てる指導を行う。
		読書習慣の習得	「朝の読書」の時間と連携し、読書する楽しみを身に付け、感性を豊かにし、様々なものの見方感じ方を知り、豊かな人生を歩める基礎を育成する。 ①②	c	
		作文の基礎的な表記の習得	基礎的な文章を表現する知識を学び、自分の考えや意見を適切に表現できる力を育成する。 ①②③	a	
	地歴・公民	基礎学力の向上	小・中学校の既習内容を、プリント等を用いて復習し、知識の定着を図る。さらに、主体的・対話的な学習活動を取り入れ、生徒が主体的に学ぶだけでなく、習得した知識を活用することのできる授業展開の工夫をする。 ①②③⑤	b	探究活動において、生徒自らが、既習内容の知識を主体的に生かせる環境作りをしていく必要がある。
		社会参画意識の形成	授業内容と社会との関わりを生徒に考えさせることによって社会参画の意識を養う。グループワーク等を活用し、生徒が自ら意欲的に学ぶための授業を展開し、社会への興味・関心を高めることができるようとする。 ①②⑥	a	

別紙様式2（高）

数学	基礎学力の定着	授業や朝トレで基本的な演習を繰り返し行うことにより基礎計算力の向上と定着を図る。①②③	a	B	問題解決力向上のために、より一層の基礎計算力を向上させすることが必要である。
	問題解決力の向上	数学の解法を学習する過程において、ICT機器を活用し問題を解決するための論理的思考を体験させ、問題解決力の向上を図るとともに応用力を身に付ける。①②⑤	b		
理科	自然科学に対する興味・関心の向上	ICTを活用して映像の提示を行い自然科学に関する情報を紹介する。また、最新のニュースや身近な話題を取り上げて、自然科学に対する興味・関心の向上を図る。①②	a	B	全学年とも生徒の学力差が大きいので、対応するための教材を作成したい。教材研究の時間が必要だと思う。
	基礎学力の充実	小テストやプリント、ワークブック等を活用し、基礎学力の充実を図る。①②	b		
保健体育	健康の保持増進と危険回避能力の育成	健康や安全に関する課題に直面したときに、科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い、適切に実践できるような資質や能力を養う。①②⑥	a	A	自身で考えながら補強運動を実践することができた。さらにCPRの技能を習得することができた。
	体力の向上	自己の体力や身体能力を知り、考えながら補強運動を実践することができるようになる。①	a		
	応急手当と心肺蘇生法の習得	初期的な応急処置RICE等の様々な知識と技法を身に付ける。心肺蘇生法の実習を行い、自ら進んで応急手当が実行できる技能を養う。(AED救命講習を含む)①②③	b		
芸術	感性の向上、創造的な表現と鑑賞の能力の伸長	様々な楽器の奏法や作曲法・発声法を学び、また音色や楽曲の美しさを感じ取らせることで、感性を豊かにし、創造的な表現能力を伸ばす。①③⑥	a	A	個に応じた指導をさらに進めて、より深く音楽活動に関わる姿勢を育成する。
		楽曲から作曲者の人生や作品の時代的背景を学び、総合的に鑑賞を行い、創造的な鑑賞能力を伸ばす。①③	a		
英語	コミュニケーション能力の育成	4技能5領域を総合的・有機的に関連させた指導を実践して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、その能力の向上を目指す。①②③④	b	B	英語への苦手意識が学習意欲が低下傾向の生徒が一定数見られる。生徒が自信を持てるような授業構成を考えたい。
	基本的な語彙及び文法事項の定着	基本的な語彙及び文法事項の指導を継続的に行い、英語による言語活動の基礎づくりを進める。①②③	b		
	研修の充実	英語を使ったわかりやすい授業を実践するための指導力向上を目指し、研修機会の充実を図る。①②③④	a		
家庭	基礎的・基本的な知識及び技術の習得専門科目を通しての知識・技術の向上	日常生活に必要な基本的な知識を習得するとともに、ICT機器を積極的に活用して基礎的・基本的技術を習得する。①②⑥	a	B	日常着の製作では、生徒の学習意欲を保つことが困難であった。達成課題のレベルを再考したい。
		日常着の製作を通して『家庭総合』で習得した基礎的・基本的技術を定着させ、更に実生活で活用できる技術の習得を目指す。①②③⑥	b		
情報	情報通信技術の基礎を学ぶ	1. 情報社会と問題解決 2. コミュニケーションと情報デザイン 3. コンピュータとプログラミング 4. 情報通信ネットワークとデータの活用 の4分野を基礎から学ぶ。①②	b	B	情報技術への興味・関心を高める取り組みを継続的に実施する。 遠隔授業については、試行錯誤を重ねながら運用の基盤を構築することができた。
	情報社会における望ましい態度の育成	著作権・肖像権等の情報倫理を身に付ける。コンピュータ、スマホ等でネットワーク、SNSを利用する際のマナーや注意力を高める指導を展開する。①②⑤⑩⑪	b		
	「小規模校支援型遠隔授業」の円滑な実施	高校教育課、受信校等と連携を図り、「情報I」の遠隔授業の円滑な実施、運用を進める。⑯⑰	a	A	

別紙様式2（高）

	総合的な探究の時間	進路意識の高揚とコミュニケーション能力及び規範意識の育成	3年間を見据えた進路ガイダンスやコミュニケーション演習等を進路実現に向けて計画的に実施する。その中で、生徒が自ら課題をもち、さらに深めていこうとする主体性の育成を目指し、自分の進路を自ら選択・決定する力を育成する。 ①⑩⑪	b	B	個別対応が必要な生徒への支援の在り方や自ら課題を設定しての探究活動の内容については検討するべき点が多い。
	道徳	マナーの修得と自他を大切にする心の育成	自他の生命や人権を尊重し、思いやりの精神・他者を理解する心を持たせるとともにマナーの必要性を自覚させる。さらに、外部講師の講話等を通して、社会の一員として自覚ある行動ができるよう、公共心を育み、自己実現に向けて努力する心を養う。 ⑥⑦⑫⑯	a	A	社会の一員として自覚ある行動が出来るよう、授業を深める。
教務 (含涉外)	授業時間の確保	授業実施時間数の確保に常に留意するとともに、特編時間割の運用を工夫する。	①③④	a	A	広報活動をさらに継続させる。
	観点別評価の更なる推進	観点別学習状況評価の実施を、学校や生徒の特性に応じて工夫しながら推進する。	①②③④	b		ICT機器を用いた学習習慣を定着させる。
	公開授業の実施	計画的な公開授業を行って、地域への情報発信及び教員研修の機会を増やす。	①⑮⑯	b		生徒のタブレット忘れを少なくする。
	ICT環境の整備	タブレット端末、電子黒板等のICT機器の管理・整備を行うとともに、ICTを活用した学習環境の充実に努める。	②③	b		保護者への各種情報提供を工夫する必要がある。
	学年や各部との連携	教育活動の円滑な運営のために、学年・部・教科との連携に絶えず努める。	①③⑭	a		観点別評価と指導を一体化させる。
	充実したPR活動の継続	地域広報誌や校内新聞、ホームページ等を利用して、学校に関する情報の効果的な発信を継続する。 ⑯⑰⑯⑯	⑯⑰⑯⑯	a		特性を持つ生徒への対応を強化する。
	水戸桜ノ牧本校との連携	水戸桜ノ牧本校との日程調整等を確実に行い、齟齬のない学校運営に配慮する。 ⑯⑰⑯⑯	⑯⑰⑯⑯	a		
	効率的なPTA組織とその運営	保護者と教職員の連絡を密にし、より効率的なPTAの組織づくりと運営を目指す。 ⑨⑯⑯⑯⑯	⑨⑯⑯⑯⑯	a		
生徒支援 (含特別活動)	基本的生活習慣の育成	早朝の立哨指導や校内巡視及び生徒による挨拶運動等により挨拶の励行を図る。	⑥⑦⑯	a	A	全教職員が共通理解、共通行動を基本として日々の生徒指導を実践していく体制の徹底を図る。
		H R・生徒面談・集会を通し、時間や規則を守ることなどの規範意識を高揚させる。(遅刻・欠席の防止) ⑦⑧⑨	⑦⑧⑨	b		生徒指導部を中心に、学校全体の指導体制、支援体制の方針を構築する。
		容姿指導を通じてTP0をわきまえることを学び自己管理能力を育成する。 ⑥⑦⑧⑨	⑥⑦⑧⑨	b		
	交通安全教育の推進	自転車・バイク安全点検と安全運転の徹底。交通安全講話の実施と公共マナーの指導。校外指導の充実。 ⑦⑯	⑦⑯	a		
	部活動の充実	部活動加入率の増加を図る。 ⑯	⑯	b		
	学校行事の円滑な運営	ツールド常北・クラスマッチ・文化祭など行事の円滑な運営と充実に努める。 ⑫⑯	⑫⑯	a		
	キャリア・パスポートの活用	各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ⑨⑩⑪⑯	⑨⑩⑪⑯	a		

別紙様式2（高）

進路指導	進路意識の喚起	進路講演会、進路ガイダンス、キャリア・パスポート等を通して、自分の将来について自ら選択し準備する力を育成する。 ⑨⑩⑫	a	A	朝のトレーニングタイムにおける生徒の取り組みについては個人差が大きくなっている。オンライン学習等、個に応じた学習法を検討したい。インターンシップをさらに充実させるため、実施時期を見直す。
	基礎学力の向上	生徒の目標に応じて各種検定試験や模擬試験、課外授業の積極的活用を促す。また、朝のトレーニングタイムにおいて個に応じた声かけや指導を充実させ、基礎学力の定着を図る。 ⑨⑪	b		
	面接指導の徹底	進路決定に向けて、自己表現の仕方を繰り返し練習することで習得させる。 ⑧⑨	a		
	インターンシップの充実	2年生時のインターンシップにおいて職業観や勤労観、更には進路を主体的に選択する能力を育成する。 ⑨⑩	a		
保健厚生	健康管理・保健指導の充実	毎日の健康観察や健康診断の結果及び各種行事前の問診等を通じて自身の健康について振り返り、健康を管理できる力を養う。 ⑭	b	A	健康診断結果をもとに必要な受診ができるよう、健康意識を高める支援を行う。有事の際、自ら判断して行動できるよう指導を行う。
		日頃から担任・学年等と連携し、SCを活用した「こころの健康」の管理に努める。 ⑧⑭	a		
	健康で安全な学校環境の整備・美化	ゴミの分別等について啓発活動を行い、意識の高揚を図るとともに、環境美化に努める。 ⑫	a		
		日頃から施設設備の安全を確保するとともに、救急処置等の保健指導の中で生徒の危機管理能力を養う。 ⑭	b		
	防災教育の推進	避難訓練、AED講習会を実施し、震災等の非常時に適切な行動がとれるようにする。 ⑫⑭	a		
第3学年	基本的生活習慣の確立	挨拶および言葉遣い、服装等の指導を継続し、規律ある生活習慣の徹底を図る。また、欠席・遅刻指導や提出物の管理などの指導をとおして、自己管理や時間を守る意識を植え付ける。 ⑥⑦⑧⑨	b	B	目標を持って進路実現等に取り組んだ生徒は、よく頑張り成果を上げた。一方、既存のキャリア教育に適応せず、家庭の支援も乏しい生徒の対応に課題が残った。
	基礎学力の向上	授業や課外および朝のトレーニングタイムを中心として、就職試験、入学試験に向けた一般常識レベルの基礎学力の定着を目指す。 ⑨⑪⑫	b		
	進路実現に向けた取り組みの充実	外部講師と連携した進路ガイダンスや模擬面接指導等を積極的に取り入れ、希望の進路実現に向けた取り組みを充実させ、全員の進路決定を目指す。 ⑨⑩⑪⑫	a		
	リーダーシップの育成	毎日の学校生活や学校行事及び部活動・生徒会活動を通じて、最上級生としてリーダーシップの育成を目指す。 ⑫⑬⑭	a		
第2学年	基本的生活習慣の確立	日常の学校生活の中で挨拶を励行し、時間を守って行動することを繰り返し指導することで社会生活の基盤を養成する。遅刻が目立つ生徒に対しては家庭との連携や個別面談をとおして生活時間の見直しをさせる。 ⑥⑦⑧⑨	c	B	遅刻者の指導に課題が残った。家庭との連携の上、生活リズムの見直しを定期的に行うなど、さらに踏み込んだ取り組みが必要である。これまでに培った互助の精神や進路意識をさらに高め、3学年での全員の進路決定を目指したい。
	基礎学力の向上	授業および「朝のトレーニングタイム」に意欲的、継続的に取り組むような学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。教科担当者と連携し、指導の徹底を図る。 ④⑫	b		
	進路意識の喚起	面談等で個別対応を適切に行い、本人と保護者間において進路に対する相互理解を深められるよう促す。進路ガイダンス等の行事を通して生徒の進路意識を高めるとともに、キャリア・パスポートやインターンシップにより将来の目標の明確化を図る。 ⑧⑩⑪⑫	b		
	豊かな心の育成	修学旅行及びその事前学習を通して防災への意識を高めるとともに、地域社会や周囲の人と協力し合う互助の精神を醸成する。また、集団行動の中で友情を育て、自他を大切にする気持ちや礼儀の大切さを学ぶ。 ⑫⑬⑭	a		

別紙様式2（高）

第1学年	基本的生活習慣の確立	HRや総合的な学習の時間等で、挨拶の励行ときちんとした服装の着用を促すよう指導を徹底する。遅刻カードや学年での遅刻指導を徹底し、遅刻防止や時間厳守の態度を身に付けさせるとともに、体調管理や事前準備の重要性を認識させる。 ⑥⑦⑧⑨	a	A	服装はある程度守られているが、欠席者や遅刻者が多い点が課題である。改善するにあたって、生活時間の見直しをさせる必要がある。 加えて次年度では自身の進路をさらに考えていかなくてはならないため、日々の支援をより充実させる必要がある。
	基礎学力の向上	「朝のトレーニングタイム」や「朝の読書」に意欲的に取り組むことにより、基礎学力の定着・集中力の向上を目指す。授業規律の徹底を促し、授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ③⑥⑪	b		
	進路意識の喚起	進路ガイダンスやキャリア・パスポートを活用して進路指導を充実させるとともに、担任による面談等で個別対応を適切に行い、生徒の進路意識の向上を図る。 ⑨⑩⑪⑫	a		
	豊かな心の育成	LHRや道徳の時間を通して、友情や自他を大切にする心を育むとともに、ソーシャルマナー演習・異文化体験・コミュニケーション演習等を通して、他人に対する思いやりの心や礼儀の大切さを学ばせる。 ⑨⑫⑬⑭	a		

※ 評価規準：A=大変良く達成できた。 B=よく達成できた。 C=普通である。 D=やや不十分である。 E=不十分である。